

令和4年度目標と取り組みの状況（令和4年2月23日）

1. 学校の教育目標

幼稚園教育要領・保育指針を基に、子どもたちが主体的に活動でき、またそれらの活動が深まるようにし、将来にわたって能動的に社会に関わって行けるように愛着形成と信頼、自信、その子らしさを育てる。

個々の園児の発達段階に即した保育ができる。

遊びによる保育、環境による保育子ども主体保育の推進。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画を

もとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

保育の方法や先生としてのあり方を見直し、目標や指針を踏まえて行動、保育目標を確認する。

保育環境、環境の整美を担当者と共同で行う。

子どもたちが主体的に関われるよう保育者の対応、園庭室内の環境、カリキュラムを整備する。特別支援に於いて保護者、自治体、療育機関、小児科医などとの連携を深める。

3. 評価項目の達成及び取り組み目標

評価項目	結果	理由
キリスト教保育	A	個性を尊重し事実を認めつつ謙虚さを持つ。
子ども主体保育	A	子ども主体の保育の体現と目標の理解
発達理解	A	子どもの発達理解、専門性
保育環境の整備	B	子どもたちが自分から選択して取り組める環境を整備。園庭の環境を能動的に関わられるように整備している。居心地の良さは。
特別支援	A	特別支援を必要とする園児の保護者と連携を深め関連機関とも関わる中で発達に応じて保育方針や対応を検討し就学に向けて自治体とも連携してあつた。また、園外研修に参加した。
保育計画	B	子ども発達と主体性を生かしたカリキュラム

4. 結果と評価

結果 理由

子どもの発達のアセスメントをしその子に応じた発達を確保することができている。園庭の安全確保と多様な活動ができる環境構成の検討が必要であること、保育計画においては、日々の記録・週ごとの記録・期間ごとの記録とそれに対するフィードバックを適切に行い年間の保育と職務の評価をよりの確に行う必要がある。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 今後取り組みむべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育教育課程の見直し	日常の保育を職員間で共有し、理念に照らし合わせフィードバックを行い、保育教育過程を見直し整備する。
保育にあたるシステムの再構築	部門ごとに相談し目標を持って保育を行い、園全体で情報共有を行い、協働して保育を行うことができる。職員の強みを活かし、ここが目標を持って働き年度末に振り返り、来年度に向けての個々の目標設定を行う
環境整備	マニュアルを整備し、特に園庭の環境の見直しを行う。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取り組み状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取り組みの状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取り組み状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組みむべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するにあたり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。